

平成23年度 決算 認定

市議会では、多摩市議会基本条例の施行を踏まえた「決算・予算の連動」の具体化を目的に、平成23年年度の決算審査と平成25年度当初予算審査を行う「予算決算特別委員会」を初めて設置、9月定例会では議長を除く全議員で構成された同特別委員会で決算審査を行いました。審査は、9月19日から27日までの7日間の日程で行われ、その中の9月20日・21日・24日では、4つの分科会による事務事業評価が行われました。

	(一般会計)	(特別会計)
歳入額	499億3,814万3,629円	274億2,536万9,893円
歳出額	481億4,501万9,826円	266億3,838万2,459円
差引額	17億9,312万3,803円	7億8,698万7,434円

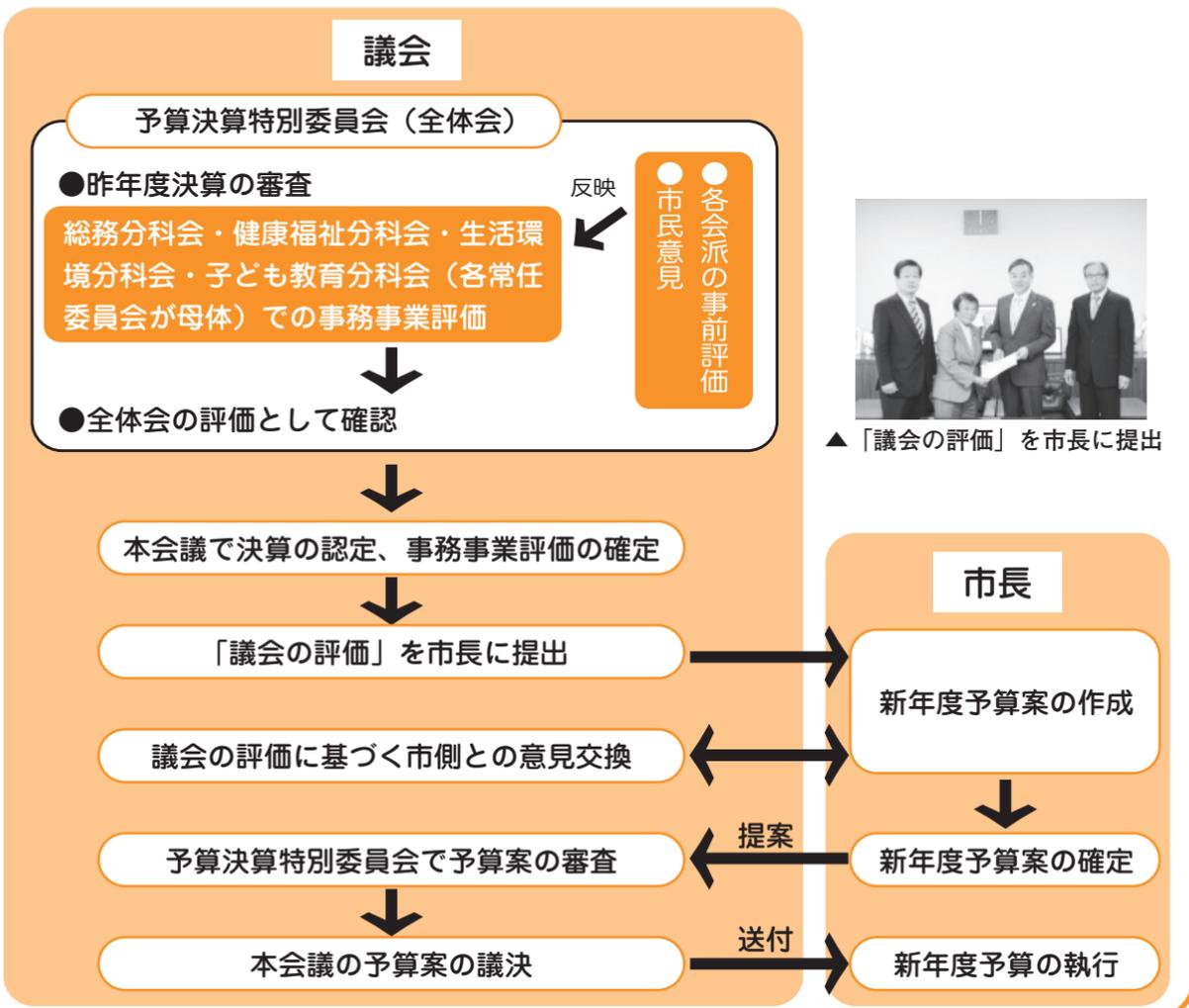
「決算・予算の連動」をめざす —予算決算特別委員会—

専門性を生かし、
各常任委員会(分科会)による
事務事業評価

多摩市議会基本条例第9条第2項に「議会は、予算に十分反映させるため、議会の評価を、市長に明確に示さなければなりません。」とあります。今回の決算審査で初めて、決算・予算の連動をめざした「予算決算特別委員会」が開会されました。より良い審議・市政につながるよう、取り組みを続けていきます。今回の事務事業評価は、これまで会派ごとに行ってきた評価を、専門性が高く、少数・超党派で議論ができる各常任委員会を母体とした分科会で試みました。

事務事業評価の提案が平成25年度予算に反映されることをめざします。

今年度の決算事務事業評価から来年度予算決定までの流れ



予算決算特別委員会

理事会メンバー紹介



(後列左から桐木、星野、藤原、大野、前列左から安藤、安斉)

- 委員長 **安藤 邦彦** (公明党)
- 副委員長 **安斉 きみ子** (日本共産党)
- 理事 **藤原 マサノリ** (自民党)
- 理事 **大野 まさき** (いろはの会)
- 理事 **星野 なおこ** (生活者ネット)
- 理事 **桐木 優** (みんなの党多摩)

進む議会改革—予算決算特別委員会の誕生

予算決算特別委員会委員長 安藤邦彦

予算は、お預かりした税金をどのように、サービスとして市民にお届けするかを表した、多摩市政の実態そのものともいえます。その予算を決定するのは、議会の重大な役割で、市長は予算の範囲内で執行する役割です。

多摩市議会基本条例第9条には、議会在前年度の決算を、本当に市民のために役に立ったかを中心に審査し、来年度予算編成に向けて、「議会の評価」をつくり、市長に示します。市長はそれを「十分反映」する、努力義務を定めています。

今回の、決算審査から予算審査までを連動させた予算決算特別委

員会を誕生させ(上図に示したとおり)、評価対象事業について、議員間の議論に基づいて意見集約を行い、「議会の評価」(次ページ)を確定して、市長に示すこととなりました。

もともと、多様な意見の集まった議会が、一つの見解をまとめることは、至難の業でありましたが、真剣で誠実な議論を積み重ねることで、多くの事業について、全会一致の評価をまとめることができました。これは、「議論する多摩市議会」の成熟度を示すものです。

今後、「議会の評価」を予算に反映すべく、市長と精力的に意見交換を続け、来年3月の予算審査に向け努力してまいります。